

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 22日から23日は、低気圧が発達しながら日本の東から千島の東に進む。日本付近は冬型の気圧配置が強まる。
- 24日は、冬型の気圧配置が続くが西から次第に緩み、25日は高気圧が西日本付近に移動する。
- 26日は、高気圧は日本の東へ移動し、気圧の谷が日本付近に進む。

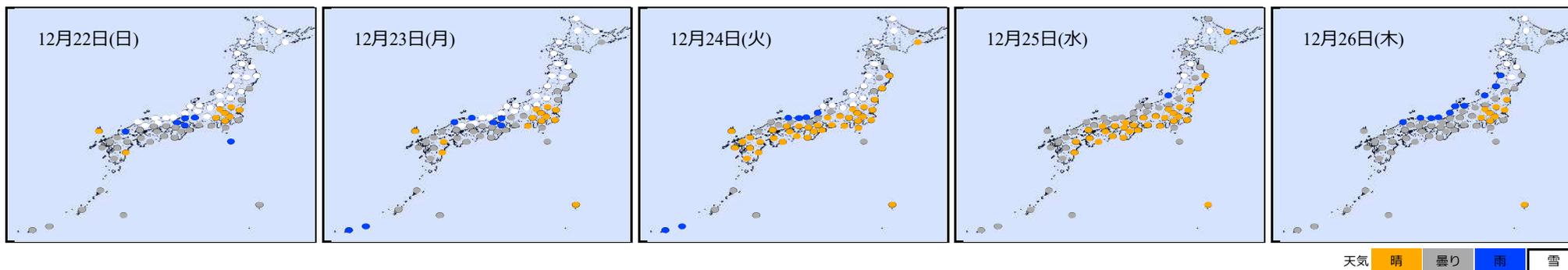
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 22日から23日頃は強い寒気が流れ込み、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。日本海側を中心に荒れた天気となり、寒気の程度等によっては東日本の日本海側を中心に警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

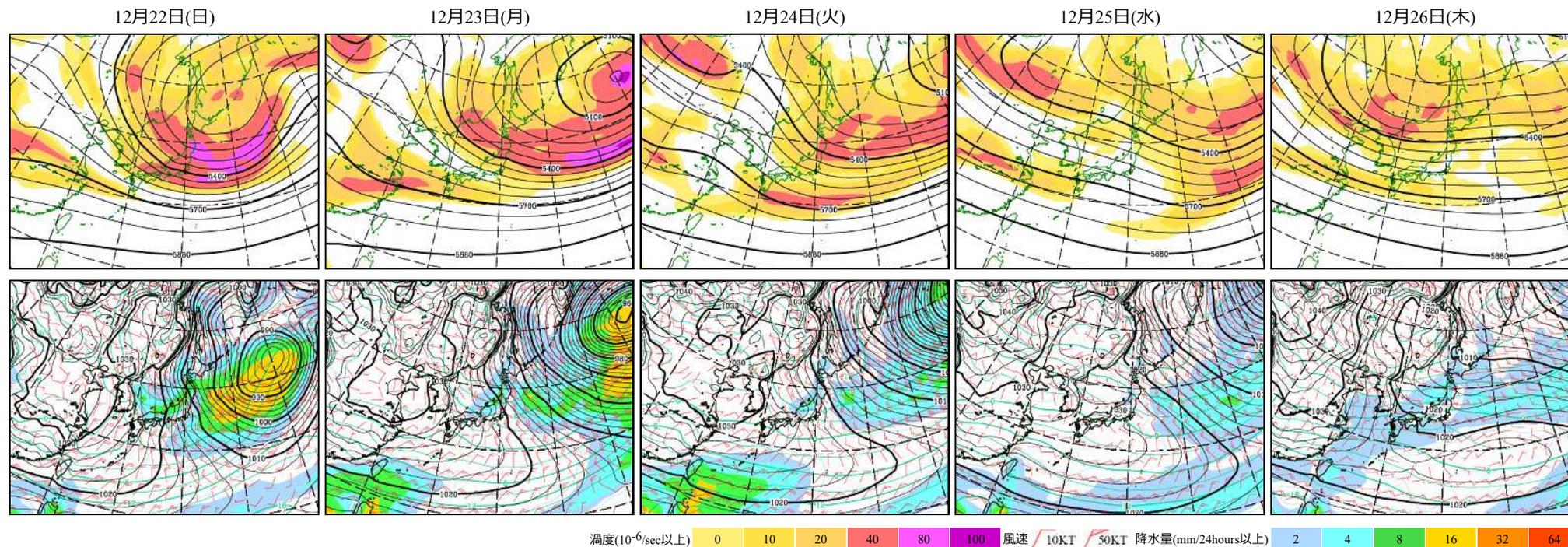
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

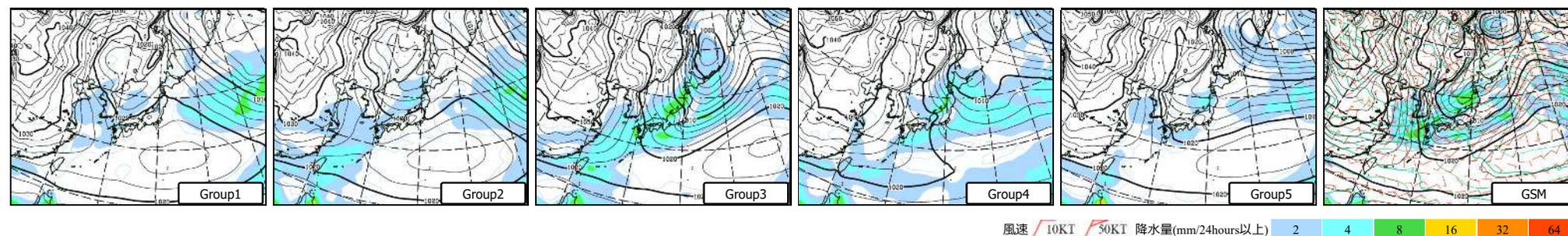


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る所が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、24日頃に北日本付近を通過するトラフは深まった。その後、日本付近に進むリッジがやや遅くなり、冬型の気圧配置が緩むタイミングはやや遅くなった。期間の終わりは、5400m特定高度線のトラフ・リッジのばらつきが大きい。
- 各モデルとも、22日から23日頃にかけて日本付近に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる予想となっている。その後は冬型の気圧配置は緩む傾向となるが、海外モデルはENSやGSMよりも緩み方かやや早い。
- 25日から26日は、各モデルとも気圧の谷もしくは低気圧が北日本付近に進む予想となっているが、低気圧の位置や発達程度等はモデル間やアンサンブルメンバー間の差が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。